

<付録> 年 表

年号 (西暦)	おもなできごと
(縄文時代 早期)	大磯の草分けとなった人たちが住み始めたと思われる(万台遺跡)。
大化 1 年 (645)	相模国造、師長国造、鎌倉別の地を併せて相模の国となる。
霊亀 2 年 (716)	高麗人1,799人を武蔵国に移し、高麗郡を置く。
養老のころ(717~724)	相模国の国府祭が始まる。
天平 7 年 (735)	余綾郡と、その郡役所が国府地区に置かれる。
平安 中期 天養~保元(1144~1158)	寺坂、王福寺の本造薬師如来坐像がつくられた。 相模国の国府が余綾郡に移る。
建久 4 年 (1193)	曾我兄弟が富士の裾野で、父の敵工藤祐経を討つ。
弘安 5 年 (1282)	国府祭、5月5日に改められる。
永禄 4 年 (1561)	上杉謙信が小田原に攻めるにあたって、高麗寺城を攻め、陣をとる。
慶長 6 年 (1601)	東海道の宿駅の制が定められ、一里塚ができる。
寛文 4 年 (1664)	崇雪が鳴立庵を建てる。
元禄 8 年 (1695)	大淀三千風が鳴立庵主第一世として入庵。
享保 17 年 (1732)	享保の大飢饉。国府新宿も凶作にみまわれる。
宝暦 12 年 (1762)	大磯宿、神明町から鳴立沢まで消失する大火。
天保 7 年 (1836)	天保の飢饉で川崎屋などが打ちこわされる。
文久 1 年 (1861)	小野懐之が私塾「秉彝館」を開館。このころ大磯に私塾、寺子屋多し。
明治 4 年 (1871)	渡辺慶次郎(寺坂の人)が日本最初の落花生を栽培する。
明治 6 年 (1873)	学生発布により大磯小学校の前身「秉彝館」、国府小学校の前身「思文館」を開校。 大磯郵便取扱所が開設される。
明治 7 年 (1874)	金目村に捕亡出張所(大磯警察署の前身)を置き、大磯駅に分派捕亡所を置く。
明治 11 年 (1878)	大住・淘綾両郡役所を大磯駅に置く。
明治 18 年 (1885)	松本順、日本最初の海水浴場を開く。
明治 19 年 (1886)	添田辰五郎(国府本郷の人)がサフランを初めて栽培。
明治 20 年 (1887)	東海道本線、横浜・国府津間が開通、大磯駅もできる。
明治 22 年 (1889)	町村制が施行され、大磯町、国府村が誕生。
明治 23 年 (1890)	大磯町が大火にみまわれる。中川良知町長は、南下町の住民を長者町に移し、町の整備をはかる。

年号 (西暦)	おもなできごと
明治 29 年 (1896)	大住・洵綾両郡を合併して中郡と改め、郡役所を大磯町に置く。 伊藤博文、大磯町に滄浪閣を建て、町民となる。
明治 33 年 (1900)	大磯町に電気供給開始。
明治 35 年 (1902)	大磯郵便局、電話交換業務の取り扱いを開始(加入者：10戸)。
明治 36 年 (1903)	大磯漁業組合が設立される(現在の大磯町漁業協同組合)。
明治 40 年 (1907)	国府村に電気供給開始。
大正 12 年 (1923)	関東大震災(死傷行方不明約245人、家屋全・半壊約1,025戸)。
大正 15 年 (1926)	大磯小学校に大磯幼稚園を併設。 中郡役所廃止。
昭和 2 年 (1927)	大磯小学校に町立大磯実科高等女学校(現県立大磯高等学校)を併設。
昭和 11 年 (1936)	江の島入口・大磯間の湘南遊歩道路開通。
昭和 9 年 (1934)	県営水道、大磯の一部に給水開始。
昭和 11 年 (1936)	照ヶ崎海岸にプール完成。
昭和 15 年 (1940)	国府郵便局開局。
昭和 20 年 (1945)	米軍機の空襲を受け、寺坂地区の大半を焼失。
昭和 22 年 (1947)	エリザベス・サンダースホーム設立。
昭和 23 年 (1948)	町立図書館開館。
昭和 27 年 (1952)	国府村は国府町となる。 教育委員会設置。
昭和 29 年 (1954)	大磯カーニバル始まる。 大磯町と国府町が合併、大磯町となる。
昭和 30 年 (1955)	町立国府保育園開園。
昭和 31 年 (1956)	二宮英雄選手がメルボルンオリンピックに出場。 大磯文化史発刊。
昭和 34 年 (1959)	町立国府幼稚園開園。
昭和 35 年 (1960)	大磯町商工会が設立される。
昭和 38 年 (1963)	大磯バイパス完成。
昭和 39 年 (1964)	大磯ホテルが東京オリンピックのヨット選手村となる。 町章制定。
昭和 40 年 (1965)	吉田茂元首相、安田靫彦画伯に名誉町民の称号を贈呈。
昭和 41 年 (1966)	西湘バイパス大磯地区(大磯起点～葛川インターチェンジ)が開通。
昭和 43 年 (1968)	消防署開署。 米国オハイオ州デイトン市と姉妹都市を締結。

年号（西暦）	おもなできごと
昭和 44 年（ 1969 ）	厚木・小田原バイパスが開通し、大磯インターができる。 町立大磯保育園開園。
昭和 45 年（ 1970 ）	曾根田恭男前町長に名誉町民の称号を贈呈。
昭和 46 年（ 1971 ）	町役場新庁舎が現在地に完成。 高麗に相模貨物駅ができる。
昭和 48 年（ 1973 ）	町立小磯幼稚園開園。 長野県小諸市・山口村と文学姉妹都市を締結。 大磯港完成。
昭和 49 年（ 1974 ）	町立月京幼稚園開園。 消防庁舎・武道館が完成。
昭和 50 年（ 1975 ）	町の木「くろまつ」「さざんか」に決定。 故島崎藤村、高橋誠一郎氏に名誉町民の称号を贈呈。 生沢プール完成。
昭和 53 年（ 1978 ）	環境美化センター「さざんか園」完成。 国府支所新庁舎完成。
昭和 54 年（ 1979 ）	休日の急患診療開始。 町立図書館国府分館開館。 町立老人福祉センター開所。
昭和 55 年（ 1980 ）	住居表示を実施。 町立国府中学校新校舎現在地に完成。 故澤田美喜女史に名誉町民の称号を贈呈。
昭和 56 年（ 1981 ）	町民憲章制定。 大磯町商工会館が完成。 駅前自転車駐車場オープン。
昭和 57 年（ 1982 ）	保健センター完成。 米国ウィスコンシン州ラシン市と姉妹都市を締結。
昭和 58 年（ 1983 ）	町立図書館が現在地に完成。
昭和 59 年（ 1984 ）	町立ふれあい会館開館。 海水浴場開設100年記念式典を開催。 町の鳥「かもめ」に決定。
昭和 60 年（ 1985 ）	町立国府保育園現在地に完成。 大磯・二宮トンネル開通。
昭和 61 年（ 1986 ）	町立大磯小学校新校舎が完成、オープンスペース方式を取り入れる。

年号（西暦）	おもなできごと
昭和 62 年（ 1987 ）	<p>鳴立庵復元工事完成。</p> <p>平和宣言記念碑完成。</p>
昭和 63 年（ 1988 ）	郷土資料館開館。
昭和 64 年（ 1989 ） (平成 元 年)	<p>狭あい道路等拡幅整備事業実施。</p> <p>町制施行100周年事業を開催。</p>
平成 2 年（ 1990 ）	<p>県立大磯城山公園開園。</p> <p>ごみ処理施設完成。</p> <p>下水道整備に着工。</p>
平成 3 年（ 1991 ）	町史編さんを開始。
平成 4 年（ 1992 ）	町立国府小学校新校舎が完成。オープンスペース方式を取り入れる。
平成 7 年（ 1995 ）	<p>照ヶ崎プールが新装オープン。</p> <p>長野県小諸市と災害時相互支援協定を締結。</p>
平成 8 年（ 1996 ）	<p>大磯町海岸自動車等乗入れ禁止条例を施行。</p> <p>西部地区防災施設が完成。</p> <p>旧島崎藤村邸を一般公開。</p>
平成 9 年（ 1997 ）	<p>町道幹16号線城山トンネル開通。</p> <p>町立国府小学校体育館が現在地に完成。</p> <p>ダイオキシン対策、ごみの分別収集開始。</p>
平成 10 年（ 1998 ）	<p>かながわゆめ・国体(ゴルフ・綱引)開催。</p> <p>町の花「はまひるがお」に決定。</p>
平成 11 年（ 1999 ）	<p>岩田記念室内競技場が完成。</p> <p>生涯学習館がオープン。</p>
平成 12 年（ 2000 ）	<p>町立大磯小学校が改装。</p> <p>高麗・東町・大磯地区の一部地域で下水道供用開始。</p>
平成 13 年（ 2001 ）	大磯運動公園一部開園(テニスコートオープン)。
平成 14 年（ 2002 ）	東海道シンポジウム大磯宿大会を開催。
平成 15 年（ 2003 ）	<p>横溝千鶴子記念障害福祉センター完成。</p> <p>大磯町運動公園野球場が完成。</p> <p>大磯町高麗と平塚市桜ヶ丘を結ぶ、高麗大橋開通。</p> <p>県と共同で大磯こゆるぎ緑地(0.17ha)を購入。</p> <p>旧野村研修所跡地(旧マリア聖堂)を購入。</p>
平成 16 年（ 2004 ）	<p>大磯運動公園多目的広場が完成、全面オープン。</p> <p>大磯町・国府町合併50周年事業を開催。</p>

年号（西暦）	おもなできごと
平成 17 年（ 2005 ）	<p>岐阜県中津川市・長野県小諸市との間で姉妹都市盟約、災害時相互応援協定を締結。</p> <p>旧野村研修所跡地の名称を「万台こゆるぎの森」とする。</p>
平成 18 年（ 2006 ）	<p>大磯駅バリアフリー化事業開始。</p> <p>旧吉田茂邸を県立都市公園として整備する方針が決まる。</p>
平成 19 年（ 2007 ）	<p>松本順没後100周年記念事業を開催。</p> <p>旧吉田茂邸シンポジウムを開催。</p> <p>20年ぶりに鳴立庵の茅葺屋根葺き替え工事が行われる。</p>
平成 20 年（ 2008 ）	<p>大磯駅バリアフリー化工事完成。</p> <p>大磯運動公園、福祉センターさざれ石で指定管理者運営開始。</p>
平成 21 年（ 2009 ）	<p>旧吉田茂邸が火災により焼失。</p> <p>伊藤博文没後100年記念展を開催。</p> <p>電気自動車を公用車に導入。併せて、電気自動車用急速充電器を敷地内に設置。</p>
平成 22 年（ 2010 ）	<p>町立月京幼稚園が移転し、町立たかとり幼稚園開園。</p> <p>大磯町横溝千鶴子記念子育て支援総合センター完成。</p> <p>町の鳥「アオバト」に決定。</p>
平成 23 年（ 2011 ）	<p>大磯町自治基本条例を制定・施行。</p>
平成 24 年（ 2012 ）	<p>東海大学との包括的な提携に関する協定書締結。</p> <p>大磯町美しいまちづくり条例を制定・施行。</p> <p>旧木下家別邸（大磯駅前洋館）が国登録有形文化財（建造物）に登録。</p> <p>町立国府小学校に学校プールが完成。</p>
平成 25 年（ 2013 ）	<p>1市2町ごみ処理広域化開始。</p> <p>神奈川大学との包括的な提携に関する協定書締結。</p> <p>県立大磯城山公園「旧吉田茂邸地区」部分開園。</p>
平成 26 年（ 2014 ）	<p>大磯町合併60周年記念事業を行う。</p> <p>大磯海水浴場開設130年を迎える。</p>
平成 27 年（ 2015 ）	<p>旧町営照ヶ崎プールを改修した『ポートハウスてるがさき』開設。</p> <p>大磯町教育大綱を策定。</p> <p>東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会のホストタウンに決定。（エリトリア国）</p>

年号（西暦）	おもなできごと
平成 28 年（2016）	郷土資料館リニューアルオープン。
平成 29 年（2017）	<p>大隅良典東京工業大学栄誉教授に大磯町名誉町民の称号を贈呈。</p> <p>旧吉田茂邸再建、公開。</p> <p>大磯町・二宮町漁業協同組合が合併。</p> <p>東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会の ホストタウンに決定。（ブータン王国）</p>
平成 30 年（2018）	<p>大磯町美化センターにリサイクルセンターが完成。</p> <p>東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会の ホストタウンに決定。（ミャンマー連邦共和国）</p> <p>産業能率大学との包括的な提携に関する協定書締結。</p> <p>明治150年事業として「明治記念大磯邸園」の一部を記念公開。</p>